

(別紙1)

避難所運営ゲーム HUG 体験会 in 道の駅 報告

1. 開催日

平成30年12月26日(水) 13:40~受付 14:00~16:00

2. 開催場所

道の駅うご端縫いの郷 おもしえ通り

3. 目的

- ①有事の際の心構えや防災意識向上に繋げる
- ②秋田県冬期防災訓練に向けた予行演習とする

4. 参加者 (総勢36名、HUG体験者24名)

- ・羽後中学校10名 ・羽後高校11名 ・慶應義塾大学1名 ・秋田大学1名 ・国際教養大1名
- ・秋田県立大学1名 ・自衛隊1名 ・湯沢消防署7名(視察3名含) ・羽後町役場3名 ・報道1名

5. 成果と課題

中学生や大学生、社会人・消防の方々と一緒に HUG を実施することで、通路の作り方や掲示板の使い方など、高校生だけでは出てこなかった発想もあり運営側にとっても大きな学びとなった。また、消防の方からは専門的なことも教えて頂き、参加者にとって有意義な時間になった。人通りの多い道の駅での開催ということもあり、足を止めて見てくれる町民の姿もあって、HUG 普及の一助にもなったと思われる。

今回は地域住民の目にとまりやすいように道の駅のおもしえ通りで実施したが、会場がかなり窮屈になってしまった。人通りが多く、余裕をもって開催できる会場の確保が必要であった。また、生徒会にとって初めての地域イベントということもあり、至らない点もあったので、次に活かしたい。

6. アンケート・感想より(一部抜粋)

- ・意識と意義を持って取り組んでおり将来を期待します。いつ災害が起こるかわからないのでいつでも災害が起きてもいいように、準備したいです。
- ・素晴らしい行動だと思います。災害時に実際運営者となる地域の方々と HUG を行うのも良いと思います。
- ・HUG の運営等、比較的わかりやすいものだったが、手元の資料として、ルールをまとめたものがあつたらよりわかりやすくなるかと感じた。
- ・ルールがわかれば、やりやすい運営ゲームだと思います。一回だけでなく何回もやることで想定できることへの対応力もつくかなと。(住民を巻き込んで何回もやっていただきたい)
- ・消防の方もいたので、良い体験談を聞いたことは非常によかった。HUG は様々な対応の仕方があるなど改めて実感した。実際の状況になった時に対応できる力をつけていかないと感じた。
- ・すごく丁寧に準備されていることがわかりました。本当にいいチャンスを作って下さった皆さんに感謝します。
- ・いざという時に行動に移せるようにできました。今回の体験を通して今後に生かせるようにしたいです。学びをみんなに伝えられるようにしたいです。

7. 消防の方からの講評（湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部 警防課 課長 高橋義浩様）

2月の秋田県冬期防災訓練でもHUGを行うため、今回の体験会を視察させて頂いた。この体験会では、通路やグループ分け、様々なシチュエーションへの対応など学ぶことが多い時間になっていた。最後の情報共有や意見交換をさらに繰り返すことによってその地域におけるルール設定にもつながると考えられる。とても有意義な訓練になっていた。

東日本大震災の際に3/15～3/19にかけて岩手県の田老町に応援で駆けつけた。避難者の食事は乾き物がほとんどで職員の食事にも配慮が必要であった。簡易トイレもすぐに一杯になりトイレで用を足したいとは思えず、ほとんど利用しなかった。現地では14体の遺体を発見し家族へ戻すことができた。当時は生存者救助に至らずやるせない気持ちでいたが、今振り返ってみると家族のもとに送り届けることも大事な任務になっていたと感じた。

このような機会を準備して頂きありがとうございました。2月の秋田県冬期防災訓練でも今回のことを活かして取り組みたい。本日の訓練お疲れ様でした。

8. 新聞記事及び当日の様子

○新聞記事(さきがけ新聞より 平成30年12月28日朝刊)



避難所運営ゲームを体験する参加者
(藤田祥子)

災害避難所運営 ゲーム通じ学ぶ

羽後町、中高生が挑戦

災害時の避難所運営をシミュレーションするゲーム「HUG（ハグ）」の体験会が26日、羽後町の「道の駅うご端縫いの郷」で開かれた。羽後高校や羽後中学校の生徒、湯沢雄勝広域消防本部の職員ら34人が参加し、有事の際の対応について理解を深めた。

途中、両親がいなくなった子どもを誰とどこに配置するかなど戸惑う場面も。羽後高の村上惟南さん（2年）は「校内で何回か練習したが、消防や地域の人がいることで、生徒だけでやるよりもさまざまな意見が出て刺激になった」と話した。

体験会は来年2月に町内で行われる県の冬期防災訓練を前に、防災意識を高めてもらうと羽後高校生徒会が企画した。HUGは同訓練の一環としても行われる。

ゲームは6、7人でつくる4グループで実施。小学校の体育館や教室に見立てた避難所の平面図を使い、進行役が年齢や性別、国籍などが記された避難者カードを出す。参加者がそれぞれの事情を考慮して適切な場所に配置する流れ。

体育館の図面上では、高齢の避難者をどこに配置するか協議した。中高生は移動に配慮して入り口付近にしようとしたところ、消防職員が「入り口付近は物資の搬入に使った方が作業効率がいい。移動の少ない高齢者は奥側の方が落ち着いて過こせる」などと助言した。

○当日の様子

(1)HUG 体験会全体



(2)避難所運営検討中



(3)意見交換

